

# 今年度の研究について

北区 白楊幼稚園  
東区 ひがしなえぼ幼稚園  
研究副主題と重点が  
共通です。連携して  
研究を推進しています!

研究主題 「質の高い幼児教育の実現に向けて」(札幌市立幼稚園共通)  
～つながる ひろがる 札幌市の幼児教育～

副主題 『幼保小連携・接続のよりよい推進のために』(北区・東区共通)

重点 『子どもの学びをつなげる』(北区・東区共通)

幼児期は遊びや生活を通して総合的に学び、小学校以降の学習の基盤となる芽生えを培う時期であり、小学校においてはその芽生えを伸ばしていくことが必要です。教科学習中心の小学校以降の教育活動では**幼児期の教育と内容や進め方が大きく異なる**が、子どもの発達や学びは連続しており幼稚園から小学校への移行を**円滑に接続する必要があります**。そのために、幼小互いの教師が『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)』を手掛かりに、それぞれの発達段階や教育内容、指導方法の違いや共通点について理解を深め、それぞれの指導方法を工夫し、**子どもの学びをつなげる**という意識を深めることが必要であると考えています。



資質能力を  
共有

今年度の研究は、以下の3つの  
方法で進めていきます。

学びを  
つなげる

①  
幼児の育ちを  
支える  
(事例・エピソード)

②  
幼児と児童の  
交流  
(環境の交流)

③  
教師同士の  
連携

白楊幼稚園

## 事例検討

各学年の目指す幼児像を切り口にした幼児の様々な活動の場面を通して、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)で育ちを振り返ったり今後の育ちを見通したりし、援助の方向性を探っていきます。

## エピソード(週案にて)

年度初めに、学びがにつながる幼児の姿について教師の思いや捉え方の意見交流し、主体的・対話的で深い学びの視点から幼児の姿をエピソードで取り上げ、幼児の育ち、教師の援助と環境構成について探り深めていきます。

## 幼児と児童

運動会・学習発表会見学  
1年生・5年生との交流

## 環境

グラウンド・プール・農園栽培  
など施設利用

## 教師同士の連携

授業参観・保育参観、参加・  
合同研修会・研究会参加

互いの教育について理解  
を深め、連携・接続の望  
ましい在り方について  
探っていきます。

ひがしなえぼ  
幼稚園

連携を図り意味の  
ある活動にしてい  
きます。

研究通信1号と3月に発行予定  
の最終号は2園合同で、その他は、  
園ごとに発行します。今年度の研  
究通信は、北区・東区両方の区  
の幼保小に配布します。ぜひお  
読みください。



# 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)とは!?

幼児期は、遊びを通して総合的に学びます。幼児が、教師との信頼関係を基盤に、興味をもって取り組む直接的な体験、友達との関わりなどの幼児期にふさわしい生活を積み重ねる過程で、特に5歳児の後半に見られる姿、それが『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)』です。

☆到達すべき目標ではありません。1つずつ取り出して指導するものでもありません。

☆一人一人の発達の特性に応じて育っていきます。

☆5歳だけでなく、3歳、4歳からの経験の積み重ねによって育っていきます。

☆小学校の教師とも、この『10の姿』を手掛かりに子どもの育ちの姿を捉え、幼小の滑らかな接続を進めています。

## 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)



『10の姿』  
詳しくはこちら

例えば…  
好きな遊びの  
一コマから

### 年長組「昨日登った円山を作ろう！」

円山登山遠足の翌日、昨日の楽しかった話題から、教師は遠足の共有体験を生かそうと考え、「また登りたいね。幼稚園でも円山作れないかな?積木とか板とか?」と話しました。すると「ああそうだ!!作る作る!!」と、それぞれがイメージを形にする方法を考え始めました。

豊かな感性と表現

一つの遊びにいくつもの「10の姿」が見られます!

言葉による伝え合い

協同性

思考力の芽生え

入り口はこうだったでしょ。どう作る?

社会生活との関わり

ここは積木の板でいい?

数量・図形、文字等への関心・感覚

それなら、こうすれば?

段ボールでお地藏さん作るわ。88番目の。四角い中にいたでしょ。

いいね!ここ押さえてるね!

ガムテープ持ってくるね!

じゃあ、ぼくは頂上の看板作るね。

このような経験を積み重ねて「10の姿」が育っていきます。

必要な物を考え、自分のイメージを友達に伝えて、同じ目的に向かって作ろうとしていました。出来上がると、それぞれのイメージで登山ごっこが始まりました。翌日も遊びは続き、弁当グッズ、熊よけの鈴など新しいアイテムを作る幼児がいて、周りの幼児もそのアイデアを受けて真似したり自分のアイデアを重ねたりして、友達とイメージを共有して楽しむ姿が見られました。

教師が、戸惑っている幼児にヒントを出したり、友達の様子に気付かせたり、子どもたちのアイデアを認め実現できるようにすぐに対応したりしたことで、子どもたちの「もっと〇〇したい」につながっていました。